

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校, 中学校)

第3編 単元(題材)ごとの学習評価について(事例)

【案】

第1章 「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成

- 1 本編事例における学習評価の進め方について
- 2 単元の評価規準の作成のポイント

第2章 学習評価に関する事例について

- 1 事例の特徴
- 2 各事例概要一覧

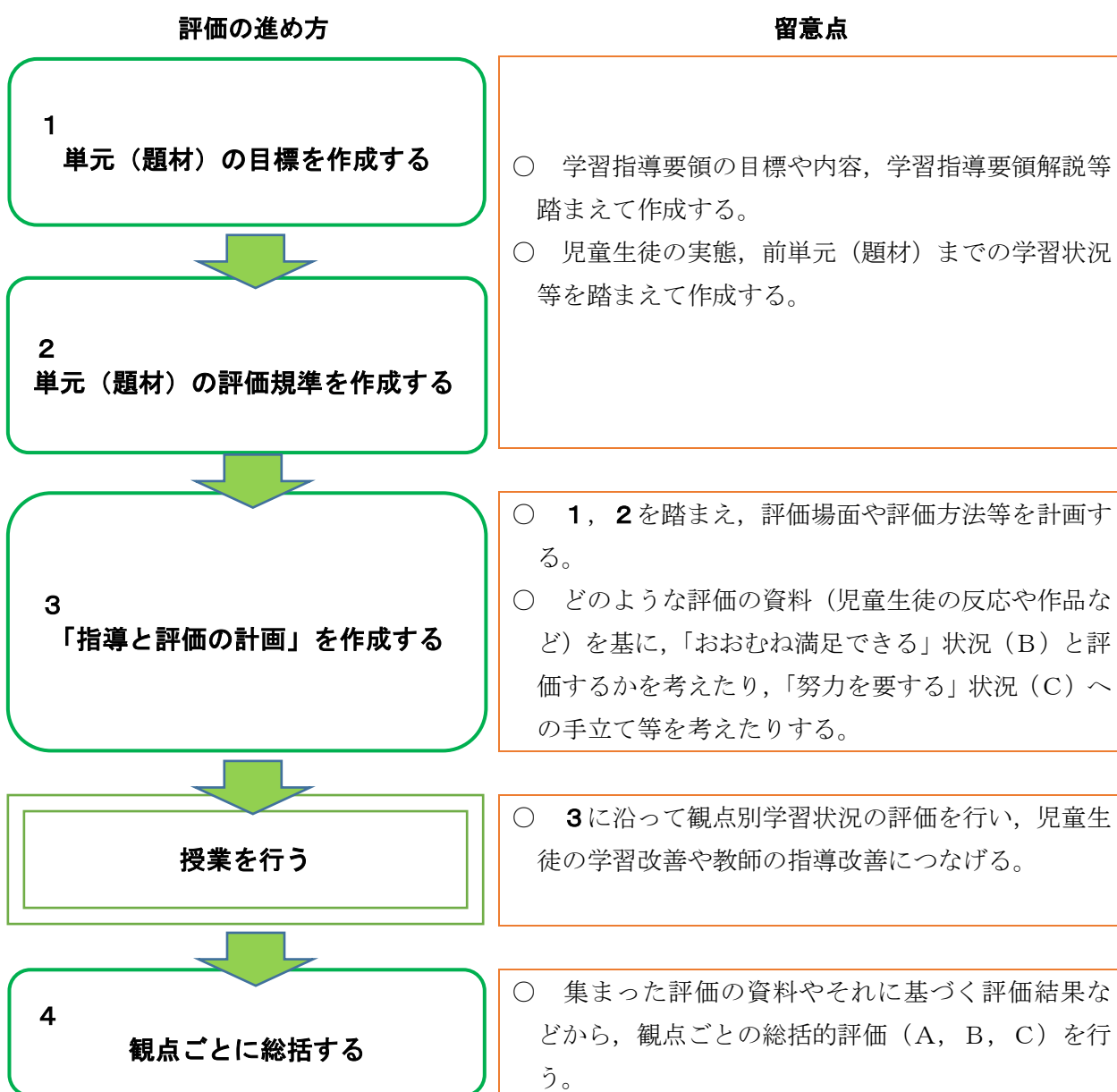
事例

国立教育政策研究所
教育課程研究センター

第1章 「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成

1 本編事例における学習評価の進め方について

各教科の単元（題材）における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとまり（五つの領域）ごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、以下のように進めることが考えられる。なお、複数の単元にわたって評価を行う場合など、以下の方法によらない事例もあることに留意する必要がある。



2 単元の評価規準の作成のポイント

外国語科における「内容のまとめり（五つの領域）ごとの評価規準」から、「単元ごとの評価規準」を作成する際の考え方

外国語科では、前述の通り、学習指導要領においては言語「英語」の目標を五つの領域別で示しており、学年ごとの目標を示していない。「指導計画の作成及び内容の取扱い」において、各学校において学年ごとの目標を設定することとしている。

このため、「外国語科の目標」「五つの領域別の目標」「内容のまとめり（五つの領域）ごとの評価規準」等に基づき、各学校が児童の実態等に応じて学校の「学年ごとの目標」及び「五つの領域別の『学年ごとの目標』」を設定した上で、「単元ごとの評価規準」を作成する場合の基本的な考え方を示す。

外国語科における「学年ごとの目標」及び「学年ごとの評価規準」の設定

- ・各学校においては、「外国語科の目標」及び「五つの領域別の目標」に基づき、各学校における児童の発達の段階と実情を踏まえ、「学年ごとの目標」「五つの領域別の『学年ごとの目標』」を適切に定める。
- ・五つの領域別の「学年ごとの目標」は、「五つの領域別の目標」を踏まえると、各々を資質・能力の三つの柱に分けずに、一文ずつの能力記述文で示すことが基本的な形となる。なお、五つの領域別の「学年ごとの目標」の設定は、これまでも中学校・高等学校においては「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標の作成及び活用として、すでに行われてきたところである。
- ・一方で、五つの領域別の「学年ごとの目標」に対応する「学年ごとの評価規準」は、「内容のまとめり（五つの領域）ごとの評価規準」を踏まえて、三観点で記述する必要がある。「学年ごとの目標」から「学年ごとの評価規準」を作成する手順は、「内容のまとめり（五つの領域）ごとの評価規準」の場合と基本的に同じである。

「単元ごとの目標」及び「単元ごとの評価規準」の設定

- ・「単元ごとの目標」は、五つの領域別の「学年ごとの目標」を踏まえて設定する。
- ・「単元ごとの評価規準」は、「内容のまとめり（五つの領域）ごとの評価規準」「学年ごとの評価規準」と同様に、「単元ごとの目標」を踏まえて設定する。
- ・「単元ごとの目標」及び「単元ごとの評価規準」は、各単元で取り扱う事柄や、言語の特徴や決まりに関する事項（言語材料）、当該単元の中心となる言語活動において設定するコミュニケーションを行う目的や場面、状況、取り扱う話題などに即して設定することになる。
- ・具体的には、第2編で示している「内容のまとめり（五つの領域）ごとの評価規準（例）」を基に、以下のような手順で作成することが可能である。
- ・これらはあくまで例示であり、より重点化したり、より端的に記載したりすることも考えられる。目標に照らして観点別の評価を行う上で必要な要素が盛り込まれていれば、語順や記載の仕方等は必ずしもこの例示の通りである必要はない。

「読むこと」の場合

○「知識・技能」の評価規準について

<知識>

- ・「【アルファベットの活字体の文字】」について理解している。」が基本的な形となる。
- ・【アルファベットの活字体の文字】には、当該単元で扱うアルファベットの活字体の文字が入る。

<技能>

- ・「【アルファベットの活字体の文字】を識別したり、その読み方(名称)を発音したりする技能を身に付けている。」が基本的な形となる。
- ・【アルファベットの活字体の文字】には、当該単元で扱うアルファベットの活字体の文字が入る。

○「思考・判断・表現」の評価規準について

- ・「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について書かれた簡単な語句や基本的な表現を声に出して読んでいる。」が基本的な形となる。
- ・【目的等】には、当該単元の中心となる言語活動において設定するコミュニケーションの目的や場面、状況を、「〇〇に応じて」「〇〇するよう」「〇〇するために」などの形で当てはめる。その際、学習指導要領の「言語の使用場面の例」や「言語の働きの例」を踏まえて設定する。
- ・【事柄・話題】には、当該単元で扱う題材における話題等が入る。

※小学校外国語科における「五つの領域別の目標」の文末は、「～できるようにする。」となっているが、「読むこと」のイのみ、「音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。」と、文末が「～するようにする」となっていることに留意する必要がある。また、この目標は、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現が書かれているものを見て、音声化することを指している。その際には、言語外情報を伴って示された簡単な語句や基本的な表現を、児童が文字の音（語の中で用いられている場合の文字が示す音の読み方）を手掛かりに、推測して読むようにする。

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準について

- ・「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、書かれた簡単な語句や基本的な表現を声に出して読もうとしている。」が基本的な形となる。

※言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的にとらえている状況については、特定の領域・単元だけではなく、年間を通じて評価する。

【「読むこと」の評価規準の設定例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (設定例)	<知識> <u>アルファベットの活字体の大文字・小文字</u>について理解している。	<u>ALTなどに自分の名前のスペリング</u>を理解してもらったり、 <u>ALTや友達の名前のスペリング</u>を確認するために、<u>名前</u>の<u>スペリング</u>を発音したり、識別したりしている。	<u>ALTなどに自分の名前のスペリング</u>を理解してもらったり、 <u>ALTや友達の名前のスペリング</u>を確認するために、<u>名前</u>の<u>スペリング</u>を発音したり、識別したりしようとしている。
	<技能> <u>アルファベットの活字体の大文字・小文字</u>を識別したり、その読み方を発音したりする技能を身に付けている。	<u>ALTなどに自分の名前のスペリング</u>を確認するために、<u>名前</u>の<u>スペリング</u>を発音したり、識別したりしている。	<u>ALTなどに自分の名前のスペリング</u>を確認するために、<u>名前</u>の<u>スペリング</u>を発音したり、識別したりしようとしている。

※ここに記した単元の目標や評価規準は、あくまで例示であり、より重点化したり、より端的に記載したりすることも考えられる。目標に照らして観点別の評価を行う上で必要な要素が盛り込まれていれば、語順や記載の仕方等は必ずしもこの例示の通りである必要はない。

「話すこと[やり取り]」の場合

○「知識・技能」の評価規準について

＜知識＞

- ・「【言語材料】について理解している。」が基本的な形となる。
- ・【言語材料】には、当該単元で扱う言語材料が入る。
- ・言語材料の種類に応じて、「○○の意味や働きを」などの形で当てはめることも考えられる。

＜技能＞

- ・「【事柄・話題】について，【言語材料】などを用いて，【内容】を伝え合う技能を身に付けている。」が基本的な形となる。
- ・【事柄・話題】には、当該単元で扱う題材における話題等が入る。
- ・【内容】には、当該単元の中心となる言語活動において伝え合う，【事柄・話題】についての自分の考えや気持ち，あるいは指示や依頼及びそれらへの応答など，伝え合う内容が入る。

※指導する単元で扱う言語材料が提示された状況で、それを使って自分の考えや、気持ちなどを話すことができる技能を身に付けている状況の評価することにとどまらず、使用する言語材料の提示がない状況においても、既習の言語材料を用いて自分の考えや気持ちなどを話すことができる技能を身に付けている状況の評価することに留意する。

○「思考・判断・表現」の評価規準について

- ・「【目的等】に応じて，【事柄・話題】について，簡単な語句や基本的な表現を用いて【内容】を伝え合っている。」が基本的な形となる。
- ・【目的等】には、当該単元の中心となる言語活動において設定するコミュニケーションの目的や場面、状況を、「○○に応じて」「○○するよう」「○○するために」などの形で当てはめる。その際、学習指導要領の「言語の使用場面の例」や「言語の働きの例」を踏まえて設定する。

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準について

- ・「【目的等】に応じて，【事柄・話題】について，簡単な語句や基本的な表現を用いて【内容】を伝え合おうとしている。」が基本的な形となる。

※言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的にとらえている状況については、特定の領域・単元だけではなく、年間を通じて評価する。

【「話すこと[やり取り]」の評価規準の設定例】

評価規準 (設定例)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<知識> 身の回りの物を表す語や, 1 言語材料 like/want/have ～, Do you ～?, What do you ～? の表現について理解してい る。 <技能> 自分や相手のことについて, 身 事柄・話題 の回りの物を表す語や, 1 言語材料 like/want/have ～, Do you ～?, What do you ～? を用 いて, 考えや気持ちなどを伝え 内容 合う技能を身に付けている。	新しくやってきたALTのことを 目的等 理解したり自分のことを伝えた りするために, 自分や相手のこ 事柄・話題 とについて, 簡単な語句や基 本的な表現を用いて, 考えや 内容 気持ちなどを伝え合っている。	新しくやってきたALTのことを 目的等 理解したり自分のことを伝えた りするために, 自分や相手のこ 事柄・話題 とについて, 簡単な語句や基 本的な表現を用いて, 考えや 内容 気持ちなどを伝え合おうとして いる。

※ここに記した単元の目標や評価規準は、あくまで例示であり、より重点化したり、より端的に記載したりすることも考えられる。目標に照らして観点別の評価を行う上で必要な要素が盛り込まれていれば、語順や記載の仕方等は必ずしもこの例示の通りである必要はない。

第2章 学習評価に関する事例について

1 事例の特徴

第1編第1章2（4）で示した学習評価の基本的な方向性を踏まえつつ、平成29年改訂学習指導要領の趣旨・内容の徹底に資するよう、本参考資料における各教科の事例は、原則として以下のような方針を踏まえて評価の事例を示している。

○ 単元に応じた評価規準の設定から評価の総括までとともに、児童生徒の学習の改善及び教師の指導の改善までの一連の流れを示している

本参考資料で提示する事例は、いずれも、単元（題材）に応じた評価規準の設定から、最終的に学習過程で得た評価情報を総括するまでとともに、評価結果を児童生徒の学習や教師の指導の改善に生かすまでの一連の学習評価の流れを念頭においたものである。なお、事例の一つは、この一連の流れを分かりやすく示している。

○ 観点別の学習状況を記録に残す場面の精選について示している

報告や改善等通知では、学習評価については、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であり、観点別の学習状況を記録に残すことについては、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選することが重要であることが示された。このため、観点別の学習状況を記録に残す場面の精選について、「指導と評価の計画」の中で、具体的に示している。

○ 評価方法の工夫を示している

各教科の評価の中で、ワークシートや作品などの評価資料として活用したものを提示するなど、教科の特性に応じて、評価方法の多様な工夫について示している。

2 各事例概要一覧

事例 1 キーワード：指導改善・学習改善、「聞くこと」「話すこと [やり取り]」における評価、指導の計画から評価の総括まで

We Can! 1 Unit 2 「When is your birthday?」(第5学年)

「聞くこと」及び「話すこと [やり取り]」における、「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価方法等に焦点を当てた事例である。

同時に、「単元を見通した指導の重要性」を示すため、単元全体を通しての指導と評価の例を記載する。併せて、「指導改善」と「学習改善」のための1つの方策として、授業中の学習活動で見取った課題を次の学習活動等で指導に生かすといった、「評価と指導のサイクル」を本事例で示すことにした。

事例 2 キーワード：「聞くこと」「話すこと [発表]」における評価

We Can! 1 Unit 5 「She can run fast. He can sing well.」(第5学年)

「聞くこと」及び「話すこと [発表]」における、「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価方法等に焦点を当てた事例である。

また、この単元では、児童それぞれが第三者について分かったことを発表する活動が設定されているため、このような言語活動の中で、どのように「聞くこと」と「話すこと [発表]」における指導と評価を行うのかについて示すことにした。

事例 3 キーワード：複数の単元を通した「主体的に学習に取り組む態度」の評価、「聞くこと」「話すこと [やり取り]」「書くこと」における評価

We Can! 2 Unit 2 「Welcome to Japan.」(第6学年)

「聞くこと」及び「話すこと [やり取り]」、「書くこと」における「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法等に焦点を当てた事例である。

ただし、「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、長期的な視点で評価することも考えられることから、本事例で扱っている単元とその前単元を通して、その指導と評価の具体を示すことにした。

事例 4 キーワード：「読むこと」「話すこと [やり取り]」「書くこと」における評価

We Can! 2 Unit 4 「I like my town.」(第6学年)

「読むこと」及び「話すこと [やり取り]」、「書くこと」における、「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価方法等に焦点を当てた事例である。

また、この単元では、児童それぞれがポスターを作成し、その成果物をお互いに読み合う活動が設定されているため、このような言語活動の中で、どのように「読むこと」と「書くこと」の指導と評価を行うのかについて示すことにした。

＜事例 5 及び 6 については、中学年 外国語活動の事例として挙げることにする＞

事例 5 **事例 6** キーワード：観点に照らし、どのような力が身に付いたかの文章評価

外国語活動の評価に当たっては、「評価の観点に照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述すること」とされていることから、実際の単元や授業計画の中で、どのように指導と評価を行うのかを示すことにした。

外国語科 事例 1 キーワード 指導改善・学習改善, 「聞くこと」「話すこと [やり取り]」における評価, 指導の計画から評価の総括まで	
単元名 We Can! 1 Unit 2 「When is your birthday?」 (第 5 学年)	関係する内容のまとめ 「聞くこと」 イ ゆっくりはっきりと話されれば, 日常生活に関する身近で簡単な事柄について, 具体的な情報を聞き取ることができるようにする。 「話すこと [やり取り]」 イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について, 自分の考えや気持ちなどを, 簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。 「書くこと」 ア 大文字, 小文字を活字体で書くことができるようにする。

1 単元の目標

自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために, 相手の誕生日や好きなもの, 欲しいものなど, 具体的な情報を聞き取ったり, 誕生日や好きなもの, 欲しいものなどについて伝え合ったりできる。また, アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。

※なお, 本単元における「書くこと」については目標に向けて指導は行うが, 本単元内で記録に残す評価は行わない。

2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<知識> 月日の言い方や, I like / want ～. Do you like/want ～? What do you like/want? When ～? その答え方について理解している。 <技能> 誕生日や好きなもの, 欲しいものなど, 具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。	相手のことをよく知るために, 誕生日や好きなもの, 欲しいものなど, 具体的な情報を聞き取っている。	相手のことをよく知るために, 誕生日や好きなもの, 欲しいものなど, 具体的な情報を聞き取ろうとしている。
話すこと「やり取り」	<知識> 月日の言い方や, I like/want ～. Do you like / want ～? What do you like / want? When ～? その答え方について理解している。 <技能> 知識を使って, 誕生日や好きなもの, 欲しいものなどについて, I like / want ～. When is your birthday? What do you like / want ～? などを用いて, 考えや気持ちを伝え合うために必要な技能を身に付けている。	自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために, 自分や相手の誕生日や好きなもの, 欲しいものなどについて, 簡単な語句や基本的な表現を用いて, お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。	自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために, 自分や相手の誕生日や好きなもの, 欲しいものなどについて, 簡単な語句や基本的な表現を用いて, お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。

※ 観点別学習状況を記録に残す場面等を精選するためには、単元のまとまりの中で適切に評価を実施できるよう、単元の計画を立てる段階から、評価時期や場面、評価方法等を考えておくことが重要であり、そのことを踏まえ、以下のとおり指導と評価の計画を作成した。

本事例では、児童の学習状況を記録に残す評価については、「評価」の欄に「聞/や」とともに「[聞くこと] / [話すこと [やり取り]]」の記録に残す評価」として示している。

それに加えて、日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことが重要であるため、児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する必要がある。そこで、本事例では、指導改善と学習改善のための方策の一つの例として、以下の「単元の指導と評価の計画」の表中「評価」の欄に「教師の指導改善のためのポイント例」、「活動」の欄に「児童の学習改善のためのポイント例」を示している。確認結果は、単元や学期末の評価を総括する際に参考にもできる。

※「単元の指導と評価の計画」内の「ST」「LL」「LW&T」「ACT」「STIME」は、それぞれ Small Talk, Let's Listen, Let's Watch and Think, Activity, STORY TIME を表している。

3 「聞くこと」「話すこと[やり取り]」に焦点をおいた単元の指導と評価の計画（7時間）

時	目標◆・活動○【】	評 価			
		知 技	思 判 表	態 度	評価規準〈評価方法〉
1	◆月の言い方を知る。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。 ○Small Talk：好きな季節や月 【Let's Watch and Think 1】 p.10, 11 【Let's Play 1】ポインティング・ゲーム(月・季節) p.10, 11 【Let's Chant】 Twelve Months (②オプション) p. 13 【Let's Listen 1】 p.12 ・誌面にある行事は何月かを予想し、音声教材を聞いて聞こえた音について、教師とやり取りしながら答えを確かめる。 ○ミッシング・ゲーム ○Let's Read and Write ○Sounds and Letters (A, H, I, M)				★本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。 【教師の指導改善のためのポイント例】 本時で初めて月名に出会うことから、本時では、活動を通して月名を繰り返し聞かせるとともに、When is your birthday? と児童に尋ね、児童の日本語での回答を Your birthday is ～.と置き換え、本単元で扱う語句や表現を十分聞かせるようにする。
2	◆月名を聞いたり言ったりすることができるとともに、日付の言い方を知る。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。 ○Small Talk：誕生日と誕生日プレゼント 【Let's Chant】Twelve Months (②オプション) p. 13 【Let's Listen 2】 p.13 ・英語での日付の尋ね方や答え方を聞く。 【Let's Watch and Think 2】 p.12 ・世界の行事名と、それが開催される月日、また、それがどのような行事かの説明を聞く。 【Let's Chant】 When is your birthday? p.13 ○Let's Read and Write ○Sounds and Letters (Y, V, X, W, T)				★本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。 【教師の指導改善のためのポイント例】 本時においても、月名や誕生日に関する語句や表現に出合っ間もないことから、活動を通して月名を繰り返し聞かせるとともに、When is your birthday? と児童に尋ね、児童の日本語での回答を Your birthday is ～.と置き換え、本単元で扱う語句や表現を十分聞かせるようにする。また、外国語活動で十分慣れ親しんだりこれまでに学習したりした Do you like ～? Yes, I do. / No, I don't. I / You like ～.What do you want? I / You want ～.などを使って、好きなものや、欲しいものについて常にやり取りをするようにする。
	◆誕生日や好きなものを聞き取ることができる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。				

3	○Small Talk : 誕生日と誕生日プレゼント 【Let's Chant】 When is your birthday? p.13 【Let's Listen 3】 p.13 ・ 音声を聞いて、登場人物のイラストと誕生日を線で結ぶ。誕生日について、指導者の質問に答えたり尋ねたりする。 【児童の学習改善のためのポイント例】 前時の LL2 と併せて聞き取れていない月名が何かを把握し、チャンツ等で注意して聞いたり言ったりするよう促す。 【Let's Watch and Think 3】 p.14 ・ 登場人物の Haruto と Hana が好きと言っているものを聞き取る。誕生日や好きなものについて、指導者の質問に答えたり尋ねたりする。 【児童の学習改善のためのポイント例】 振り返り前に、教師が“My birthday is ～. When is your birthday?”と数名に尋ねた後、全体にも尋ね、誕生日を言えたかどうかを振り返らせて次時の目標をもたせる。 ○Let's Read and Write ○Sounds and Letters (F, N, L, K, E)				★本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。 【教師の指導改善のためのポイント例】 LC で自信なげに言っている児童や LL3 において誕生日を聞き取れていない児童がいる場合は、LC を再度設定し、歌詞をその誕生日に替えて行うようにする。 LW&T3 において、好きなものを聞き取れていない児童がいる場合は、次時の LW&T4 を複数回視聴させ、回答を確認する際に、指導者が好きなものについて尋ねたり答えたりするなどの表現を何度も繰り返し言って、聞かせるようにする。また、第4時に向けて、児童に誕生日や好きなもの、欲しいものについて尋ね、その質問の仕方や答え方に慣れさせておく。
4	◆誕生日や好きなもの、欲しいものを聞き取ったり、それらについて尋ねたり答えたりして伝えたりすることができる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。 【Let's Chant】 When is your birthday? p.13 ○Small Talk : 誕生日と誕生日プレゼント 【Let's Watch and Think 4】 p.15 ・ デジタル教材を再度、視聴し Hana について分かったことをテキストに書く。誕生日や好きなもの、欲しいものについて教師の質問に答えたり尋ねたりする。 ○指導者の誕生日についての短い話を聞き、聞き取ったことをワークシートに記入する。誕生日や好きなもの、欲しいものについて質問に答えたり尋ねたりする。 ○メモリー・ゲーム 【Activity 1】 p.14 ・ インタビューをする。ペアで誕生日に欲しいものを尋ねたり答えたりして記入する。 ○Let's Read and Write ○Sounds and Letters (Z, G, D, B)	聞			★本時では、[話すこと [やり取り]] については、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。 【教師の指導改善のためのポイント例】 LW&T4 を複数回視聴し、指導者が I'm Hana. I like...? I want ...? と視聴内容を確認した後、複数名の児童に When is your birthday? What do you want for your birthday? Do you like ～?と尋ね、これらの表現を十分に聞かせるようにする。前活動で、欲しいものなどについて聞き取りが十分ではない児童がいる場合は、その児童に尋ね、これらの表現を理解させるようにする。また、次時での活動につなげるためにも、本時の様々な活動後に I like soccer. What sport do you like? I want ～ for my birthday. When is your birthday? What do you want for your birthday? のように、指導者が好きなものや欲しいものを表現してから尋ね、意味のあるやり取りの中で表現の定着を図るようにする。 【「聞くこと」の記録に残す評価】 ○指導者の誕生日や好きなもの、欲しいものを聞き取っている。<行動観察・ワークシート記述分析> ・ 児童が聞き取る様子やワークシートの記述を分析し、評価の記録を残す。 →p.14

5	◆相手のことをよく知るために、誕生日などについて短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取ったり、誕生日や好きなもの、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。また、活字体の大文字を書くことができる。 【Let's Chant】 When is your birthday? p.13 【Let's Watch and Think 4】 p.15 ・デジタル教材を再度、視聴し Gilbert について分かったことをテキストに書く。 (Small Talk 欲しいもの) ○メモリー・ゲーム 【Activity 2】 p.16 ・プレゼントしたいものの絵を描いてパースデーカードを完成させる。 【児童の学習改善のための評価場面例】 よいやり取りの例の紹介を聞いて、次の【Activity 2】に向けて自分はどうかという見通しをもつ。 ○カードを作ろう。 【Let's Watch and Think 5】 p.15 ・デジタル教材を視聴して Laksh について分かったことを、テキストに書く。 ※教材の登場人物は、児童と同じ5年生であり、児童とともに1年間成長する設定となっている。さらに、単元での学習を重ねながら、児童が登場人物について理解を深めることで、各単元の内容が理解できる設定となっている。 ○Sounds and Letters (O, J, C, P)		聞	聞	【教師の指導改善のためのポイント例】 前時の「○指導者の話を聞く」活動において、十分に聞き取りができていない児童がいる場合は、その児童の状況を見ながら活動を進め、聞き取りができるよう継続的に指導を行う。また、欲しいものを聞き取れずに紙面に書けていない児童がいる場合は、STを設定し、何が欲しいか尋ねたり、答えたりするようにする。 【「聞くこと」の記録に残す評価】 ◎相手のことをよく知るために、誕生日などについて短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取っている。＜行動観察・テキスト記述分析＞ ◎相手のことをよく知るために、誕生日などについて短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取ろうとしている。＜行動観察・テキスト記述分析＞ ・児童が聞き取る様子やテキストの記述を分析し、評価の記録を残す。
6	◆自分のことをよく知ってもらったり相手のことを知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。 ○Small Talk : 好きなもの、欲しいもの 【Let's Chant】 p.13 When is your birthday? 【Let's Watch and Think 6】 p.16 ○Let's Read and Write 【Activity 2】 p.16 ・パースデーカードの相手を探し、他者に配慮しながらカードに書かれていることについてやり取りする。	や			【教師の指導改善のためのポイント例】 「聞くこと」については「記録に残す評価」を行わないが、「話すこと[やり取り]」においても「聞くこと」ができていることが前提となるため、引き続き全児童が「聞くこと」ができるよう丁寧に指導を継続する。また、LW&T6を複数回視聴し、やり取りの例を理解させるようにするとともに、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、数名の児童に全体で尋ねるなどして、児童がACT2でのやり取りを自信をもって行えるようにする。 【「話すこと[やり取り]」の記録に残す評価】 ◎誕生日や好きなもの、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合っている。＜行動観察＞ ・児童が伝え合う様子を観察し、評価の記録を残す。 【教師の指導改善のためのポイント例】 ACT2においてやり取りが十分でない児童がいる場合は、STIMEで読み聞かせをした後、教師が誕生日や好きなもの、欲しいものなどについてのやり取りが十分でないその児童とやり取りを行

	【STORY TIME】① p.17 ○Sounds and Letters (S, Q, U, R)				い、表現の定着に向けて指導を行う。
7	◆自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合おうとする。 【Let's Chant】 When is your birthday? p.13 【Activity 2】 p.16 ・バースデーカードの相手を探し、他者に配慮しながらカードに書かれていることについてやり取りする。 【STORY TIME】② p.17		や	や	【教師の指導改善のためのポイント例】 「聞くこと」については「記録を残す評価」を行わないが、「話すこと[やり取り]」においても「聞くこと」ができていることが前提となるため、引き続き全児童が「聞くこと」ができるよう丁寧に指導を継続する。 【話すこと[やり取り]】の記録に残す評価 ◎自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている。＜行動観察＞ ◎自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。＜行動観察＞ ・児童が伝え合う様子を観察し、評価の記録を残す。→p.17

本単元における「聞くこと」「話すこと[やり取り]」の評価場面

時	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1			
2			
3			
4	指導者の話を聞く活動		
5	(LW&T 5)	LW&T 5	
6	ACT 2		
7	(ACT 2)	ACT 2	

4-1 第4時（「聞くこと」の評価場面）の指導と評価

5年 Unit 2—Lesson 4	単元名	When is your birthday? 行事・誕生日	4/7 時間
目 標	誕生日や好きなもの、欲しいものを聞き取ったり、それらについて尋ねたり答えたりして伝えたりすることができる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。		
準 備	児童用テキスト、ワークシート（Unit 2-2, 2-8, 他）、バースデーカード（前時に使用したもの）、デジタル教材、振り返りシート		

時間	児童の活動	・指導者の活動 ◎評価<方法> ●指導改善例	準備物
3分	・挨拶をする。 【Let's Chant】When is your birthday? p.13 ・音声に合わせてチャンツを言う。	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・児童の実態により、スピードを選ぶ。 ●第3時で誕生日を聞き取ることが不十分な児童がいた場合、その月を替え歌にして言うなどの目標に向けた指導を行う。 たん生日や好きなもの、ほしいものを聞きましょう。	デジタル教材
8分	【Let's Watch and Think 4】p.14 ・デジタル教材を視聴し、Hana について分かったことをテキストに書く	・デジタル教材を視聴する際は、耳だけで聞き取ろうとせず、表情やジェスチャーなどの音声以外の非言語情報が内容理解の助けになることを確認する。 ・Gilberto と Hana の会話場面であることを確認し、Hana について分かったことをテキストに書くように言う。 ・児童の様子を見ながら、複数回視聴させる。	ワークシート
	はな：Gilberto. I like your T-shirt. ギルベルト：Thank you. It's new. はな：Do you like soccer? Do you want new soccer shoes? ギルベルト：Yes! Yes! I want new soccer shoes. I want a new soccer ball, too. For my birthday! Hana, what do you want for your birthday? Do you want a new soccer ball? はな：No, I don't. I like dancing. And I like orange things. ギルベルト：What do you want for your birthday? はな：I want an orange bag. And I want one more thing! ギルベルト：One more thing? はな：Yes! I want a dog for my birthday.		
		●複数回視聴させた後、教師が I'm Hana. I like...? I want ...? と視聴内容を確認した後、複数名の児童に When is your birthday? What do you want for your birthday? Do you like ~? と尋ね、これらの表現を十分に聞かせるようにする。前活動で、欲しいものなどについて聞き取りが十分ではない児童がいる場合は、その児童に尋ね、これらの表現を理解させるようにする。	
5分	○指導者の誕生日についての話を聞く。 ・指導者がゆっくりはっきり話すのを聞いて、分かったことを書く。	・指導者が誕生日などについて話すことを聞いて、ワークシートに分かったことを記入するよう言う。	デジタル教材 ワークシート

		(指導者の誕生日についての話の例) My birthday is September 28th. I like ice cream. So, I want ice cream for my birthday present. I like chocolate and strawberries. Then I want to eat chocolate and strawberry ice cream.	
		◎指導者の誕生日や好きなもの、欲しいものを聞き取っている。〈行動観察・ワークシート記述分析〉	
5分	○メモリー・ゲーム ・グループでじゃんけんをして、勝った者から右回りで行く。カードを贈り合う児童同士は同じグループにならないようにする。	・進め方の例を示す。 ・中学年で慣れ親しんだ、好きなものを尋ねたり答えたりする表現を聞いたり言ったりして、Activity 1につなげる。	
		全員：What color do you like? A：I like blue. 全員：What color do you like? B：A, you like blue. I like white. 全員：What color do you like? C：A, you like blue. B, you like white. I like orange. 全員：What color do you like? D：A, you like blue. B, you like white. C, you like orange. I like yellow. 同様に、グループ全員が行う。color が終われば、animal, food などと同様に行う。	
		●ゲームのルールとしてだけではなく、相手の発言を繰り返すことは Small Talk 等で対話を続けるための方策であることも体験を通して伝え、学習改善につなげる。	
14分	【Activity 1】 p.14 ・バースデーカードを贈り合うペアで、誕生日や好きなもの、欲しいものを尋ねたり答えたりする。 ・インタビュー内容に沿って、相手の好きな色でバースデーカードを飾ったり、好きなものの絵を描いたりする。	・相手が喜ぶバースデーカードを作成するという目的を確認し、そのためにしっかり聞き取ろうという意欲をもたせる。 ・Let's Watch and Think 4 での Gilberto と Hana の会話を思い出させるとともに、メモリー・ゲームでの相手の答えに対する反応を意識させながら、テキスト誌面の内容について、友達と互いに尋ねたり答えたりさせる。 ・お互いの誕生日について対話の中で尋ね合うように指示をするが、クラスの友達であることを考えると、“When is your birthday?”と尋ねた後に、“January 18th?”と誕生日を確認する聞き方をするとも考えられる。 ・活動が終了したペアには、次の活動までにバースデーカードを作るように言う。	児童用テキスト バースデーカード (前時に使用したもの)
5分	○Let's Read and Write ・バースデーカードに文字を書き写す。カードの所定の場所に Happy Birthday! の H と B を書き写す。 (appy irthday!)	・黒板に実際に書いて見せ、友達がカードをもらった時に嬉しくなるよう丁寧に H と B を書くように促す。 ・ワークシートの表の下に記載してある手本をよく見て書かせる。	バースデーカード (前時に使用したもの) ワークシート (Unit 2-2)
	○Sounds and Letters (Z, G, D, B)	・書く前に、児童と一緒にアルファベットの読み方や4線上の位置について確認してから始める。	ワークシート (Unit 2-8) デジタル教材

5 分	・ Z, G, D, B の書き方を知り，形や4線上の書く位置に注意を払いながら，ワークシートの4線上に文字を書く。 ・ 文字の名称を聞いて書く。	・ ワークシート(Unit 2-8)「2.自分で練習しよう。」の4線上に聞こえた文字を書くよう促す。デジタル教材で音声を流す際には，目を閉じさせたり，文字が TV 画面に映らないようにしたりして，聞くことに集中できるよう配慮する。	
3 分	・ 本時の活動を振り返る。振り返りシートに記入する。 ・ 挨拶をする。	・ 本時のめあてに沿って振り返らせ，書くように促す。 ・ 挨拶をする。	振り返りシート

第4時 ワークシート例

○先生の話聞いて，たん生日や好きなもの，ほしいものを書きましょう。



たん生日

好きなもの

ほしいもの

4-2 「聞くこと」(知識・技能)の評価例

評価場面	指導者の話を聞く活動
評価方法	行動観察・ワークシート記述分析
事前の手立て	- 第3時までに全体に When is your birthday? What do you want for your birthday? Do you like ~?と尋ねた後、複数の児童に個別に尋ね、児童の回答に応じて、Your birthday is ~. You want / like ~. と返すことを通して、月名や日付を聞かせこれらの語句や表現の定着を十分にはかしておく。 - 第4時に ALT が来校する計画の場合は、ALT の話を聞く活動で「記録に残す評価」を行うことが考えられる。その場合は、指導者は、それまでの全時間を通して、When is your birthday? My birthday is ~. When is your birthday? I want ~ for my birthday. What do you want for your birthday? I like ~. Do you like ~?と答え方を聞かせてから、尋ねるなどして、児童に月名やこれらの表現を意味のあるやり取りの中で十分聞かせたり言わせたりしておくようにする。
評価例	- 児童1は、指導者の話を聞いて、ワークシートに「たん生日：9月28日」「好きなもの：チョコレートといちご」「ほしいもの：アイスクリーム」と書いていたので、「おおむね満足できる」状況(b)と判断した。 - 児童2は、指導者の話を聞いて、ワークシートに「たん生日：8月28日」「好きなもの：アイスクリーム」「ほしいもの：チョコレートといちご」と書いていた。月名と欲しいものの聞き取りが正確さに欠けていることから、「努力を要する」状況(c)と判断した。
事後指導	児童2について、「努力を要する」と記録に残す評価をしたため、改善点について、振り返りシート等に記入したり、口頭で伝えたりして児童の学習改善につながるようにする。月名や want の意味理解を確かめるために、What do you want?と尋ねたり答えたりする、Small Talk などの活動を行ったり、ACT2でのやり取りを見取ったりしながら、指導改善・学習改善を継続的に行うようにする。また、次時での LW&T5 で改善が見られたため、その見取りを「知識・技能」に加味し、「おおむね満足できる」状況(b)と判断し、「記録に残す評価」とし、本単元における「聞くこと」における「知識・技能」において評価の総括を「B」とした。

4-3 本単元における「聞くこと」における評価の総括

評価観点	知識・技能	(知識・技能)		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
評価場面	第4時	(第5時)		第5時		第5時	
評価方法	行動観察・ワークシート記述分析	行動観察・テキスト記述分析		行動観察・テキスト記述分析		行動観察・テキスト記述分析	
評価規準	指導者の誕生日、好きなもの、欲しいものを聞き取っている。	相手の誕生日、好きなもの、欲しいものを聞き取っている。		相手のことをよく知るために、誕生日などについて短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取っている。		相手のことをよく知るために、誕生日などについて短い話を聞いて、具体的な情報を聞き取ろうとしている。	
児童1	b	-	B	c	C	c	C
児童2	c	(b)	B	b	B	b	B
児童3	b	-	B	a	A	a	A

5-1 第7時（「話すこと」[やり取り]の評価場面）の指導と評価

5年 Unit 2—Lesson 7 単元名 When is your birthday? 行事・誕生日 7/7 時間

目 標 自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合おうとする。

準 備 児童用テキスト、バースデーカード（児童が完成させたもの）、デジタル教材、振り返りシート

※デジタル教材で特に表記のないものに関しては該当学年のものを使用する。

時間	児童の活動	指導者の活動 ◎評価<方法>	準備物
5分	・挨拶をする。 【Let's Chant】When is your birthday? p.13 ・音声に合わせてチャンツを言う。	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・児童の実態により、チャンツの種類やスピードを選ぶ。	デジタル教材
30分	【Activity 2】 p.16 ・バースデーカードの相手を探し、他者に配慮しながらカードに書かれていることについてやり取りをする。お祝いの気持ちを込めてバースデーカードを渡す。	・児童を、カードを届ける側ともらう側に分ける。 ・他者に配慮するとはどういうことか、全員で意見を出し合い、共通理解を図ってから活動を始める。 ・学級の実態により、気持ちのよいやり取りの具体例についても共通理解をしてから始めるなど工夫をするとよい。 ・進め方の例を示す。	バースデーカード (児童が完成させたもの)
進め方 ・前時に完成したバースデーカードを集め、あらかじめ次のように分けておく。 児童を、カードを届ける側①ともらう側②の2つのグループに分ける。誕生日カードを、①の児童がもらうカード（①カード）と、②の児童がもらうカード（②カード）の2つに分ける。 ・①の児童に②カードを、②の児童に①カードを無作為に配る。その際、作った本人に作ったカードが渡らないようにする。 ・まず、①の児童が②カードを持って、②の児童の誰かとペアになってやり取りをしながら、自分の持つ②カードの誕生日の人を探す。うまく探し当てられたら、そのカードを開いて To の名前と一致しているかを確認し、カードの内側に様々描かれている好きなもの欲しいものについて尋ねたり答えたりしてやり取りをしてから、カードを渡す。			
	・活動の途中で、やり取りが長く続いたペアがデモンストレーションする。 ・友達について気付いた意外な一面や知ることができて良かったことや嬉しかったことなどを交流する。	・活動の途中で中間評価をして、会話のモデルとなる良いやり取りの具体例を示し、児童が自分の後半の活動のめあてを決めた上で、後半の活動を開始するとよい。 ・活動後には、バースデーカードを通して気付いた友達の意外な一面などについて交流させ、児童の「もっと互いのことを知りたい」という気持ちを高めるようにする。 ◎自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりして伝え合っている。<行動観察> ◎自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて尋ねたり答えたりし	

		て伝え合おうとしている。<行動観察>	
	やり取りの例	S1: Hello! S2: Hello! S1: When is your birthday? S2: My birthday is February 15th. S1: I'm sorry. I don't have your card. Goodbye. S2: Goodbye. S1: Hello! S2: Hello! S1: When is your birthday? S2: My birthday is March 14th. S1: March 14th. Oh, this is your birthday card. S2: Thank you very much. (カードはまだ渡さず、カードに描かれているものについて S1 が S2 に尋ねる) S1: Do you like blue and white? S2: Yes, I do. I like blue very much. What color do you like? S1: I like yellow. Do you like table tennis? S2: Yes, I do. I like table tennis. S1: Me too! I like table tennis. It's fun. You want a new T-shirt for your birthday? S2: Yes. I want a new T-shirt! S1: This is for you. Here you are. Happy birthday! S2: Thank you very much. (S1 が S2 にバースデーカードを渡す)	
	※カードの相手が見つかったペアが会話を始めることで、次第に相手がまだ見つからない人数が減っていく。そのため相手を探しやすくなる。		
5分	【STORY TIME】② p.17 ・かずとマリアの絵本の読み聞かせを聞く。	- 絵本を読み聞かせる際には、一方的に絵本の台詞を読むのではなく、児童と各ページにあるさまざまなイラストや話の筋についてやり取りしながら読むようにする。そうすることで、話の筋についての理解を助けるとともに、児童を絵本の世界に引き込むことができる。 - 高学年で扱っている絵本のページに記されている台詞は、やがて児童が読み聞かせを聞きながら絵本の台詞を指で追って聞いたり、自分で読むことに挑戦したりすることを想定し、短く単純なものにしている。よって、指導者が台詞以外の言葉を加えながらやり取りを行い、児童の想像を膨らませるようにすることが大切である。 - 指導者は、ジェスチャーを付け、表情豊かに読む。これらも児童にとっては、物語の筋を理解する上で大切な情報源となる。デジタル教材を使って読み聞かせをしてもよい。 - この後に続くかずの台詞を自由に考えさせて、発表し合うなどの活動なども考えられる。	デジタル教材 児童用テキスト
5分	- 本時の活動を振り返る。振り返りシートに記入する。 - 挨拶をする。	- 本時のねらいに照らして児童を称賛する。 - 挨拶をする。	振り返りシート

5-2 「話すこと〔やり取り〕」（思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度）の評価例

評価場面	Activity 2
評価方法	行動観察
事前の手立て	・本時までに全体に When is your birthday? What do you want for your birthday? Do you like ～? と尋ねた後、複数の児童に個別に尋ね、児童の回答に応じて、Your birthday is ～. You want / like ～. と返すことを通して、誕生日や好きなもの、欲 しいものについて尋ねたり答えたりする表現の定着を十分にはかしておく。 ・また、上記に示す本時で扱う語句や表現だけでなく、中学年外国語活動で慣れ親しん だり、これまでの単元で学習したりした語句や表現を、指導者は常に意識して使い、 自分の気持ちや考えを児童と伝え合うようにする。
評価例	<u>児童１と児童３のやり取り</u> 児 3: Hello! 児 1: Hello! 児 3: When is your birthday? 児 1: December ... 10th. 児 3: Oh, your card. （カードに記されたチョコレート、青い色の靴、バレーボールのイラストを見て） Do you like chocolate? 児 1: Yes, I do. Chocolate, good! 児 3: Me, too. I like chocolate. 児 1: Me, too. Me, too. 児 3: Do you like blue? 児 1: Yes. Blue! You? 児 3: I like yellow. 児 1: ああ, Yellow. 児 3: Yes. I like yellow. And I like baseball. Do you like baseball? 児 1: Baseball? No. No, baseball. 児 3: What sport do you like? 児 1: Volleyball. You like volleyball. Nice. 児 1: Yes, yes. Volleyball, good. You, volleyball? 児 3: Volleyball..., no, I don't. I like baseball. I like Ohtani Shohei. 児 1: Oh, Ohtani. OK. 児 3: Birthday present, what do you want? 児 1: Birthday present, ... bag. Bag 児 3: Bag? You want bag? 児 1: Yes, bag. Good bag! 児 3: What color? 児 1: Color? 児 3: Red, yellow, blue.... あっ、Blue bag? 児 1: Oh, blue bag. 児 3: OK. Birthday card, here you are. 児 1: OK, thank you. 児 3: You're welcome. <u>児童２と児童３のやり取り</u> 児 2: Hello! 児 3: Hello! 児 2: When is your birthday? 児 3: My birthday is February 2nd. 児 2: Your card. （カードに記された野球のボールとバット、黄色、犬のイラストを見て） Baseball, do you like baseball? 児 3: Yes, I do. I like baseball. 児 2: Me, too. 児 3: Nice. I like Ohtani Shohei. Do you like Ohtani Shohei? 児 2: Yes, I do. 児 3: Ohtani Shohei is great. 児 2: Yes, yes. Do you like yellow? 児 3: Yes, I do. How about you? 児 2: No, I don't. 児 3: What color do you like? 児 2: I like blue. Do you like blue? 児 3: Yes, I like blue, too. 児 2: Birthday present, what do you want? 児 3: Dog! I want dog. 児 2: Oh, do you like dog? 児 3: Yes, yes. I like dog. Do you like dog? 児 2: No. I like cats. 児 3: OK. Good. 児 2: Birthday card, here you are. 児 3: Thank you. 児 2: You're welcome.

	・児童1は、自分のことを知ってもらったり相手のことをよく知ったりしようという目的に向けてコミュニケーションを図ろうとする意欲は見られるので、「主体的に学習に取り組む態度」の観点では「おおむね満足できる」(b)と判断した。しかし、「思考・判断・表現」の観点では、自ら既習語句や表現を用いて実際に自分のことを伝えたり、相手のことについて尋ねたりしていないことから、「努力を要する」状況(c)と判断した。 ・児童2は、自分のことを知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、既習語句や表現を使って誕生日や好きなもの、欲しいものなどを尋ねたり答えたりしようとし、実際にしているので、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」において「おおむね満足できる」状況(b)と判断した。 ・児童3は、自分のことを知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、既習語句や表現を使って誕生日や好きなもの、欲しいものなどを尋ねたり答えたりしようとし、実際にしている。その上に、カードにない野球のことを尋ね、自分の好きなものをさらに伝えていることから、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」において「十分満足できる」状況(a)と判断した。
事後指導	・児童1について、「努力を要する」と記録に残す評価をしたため、改善点について、振り返りシート等に記入したり、口頭で伝えたりして児童の学習改善につながるようにする。指導者は、次の単元以降も常に既習語句や表現を用いてまず指導者が自分のことを言うことから、尋ね、児童が既習語句や表現を十分使う機会を与え、それらが定着するよう指導を継続する。また、次時でのACT2で改善が見られたため、その見取りを加味し、「おおむね満足できる」状況(b)と判断し、「記録に残す評価」とし、本単元における「話すこと[やり取り]」における「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」において評価の総括を「B」とした。 ・「話すこと[やり取り]」の評価については、ペアになる相手によって内容が変わることも考えられるため、学期に1回程度のパフォーマンス評価において全児童を、条件を一定にそろえて見取ることも考えられる。 ・いずれの児童についても、I like dog. や I want bag. など、複数形の s や不定冠詞の a が抜けていたりするが、これらは「文法事項」と捉え、評価の対象とはしていない。ただし、指導は、児童のこのような誤りをそのままにするのではなく、You like dogs. I like dogs, too. などと正しい形で繰り返し、児童がその違いに気付けるよう指導を行う。

5-3 本単元における「話すこと[やり取り]」における評価の総括

評価 観点	知識・技能	(知識・技能)		思考・判断・表現		主体的に学習に 取り組む態度	
評価 場面	第 6 時	(第 7 時)		第 7 時		第 7 時	
評価 方法	行動観察 ACT2	行動観察 ACT2		行動観察 ACT2		行動観察 ACT2	
評価の 内容	誕生日や好きな もの、欲しいも のを尋ねたり答 えたりして伝え 合っている。	誕生日や好きなも の、欲しいものを 尋ねたり答えたり して伝え合ってい る。		自分のことをよく知って もらったり相手のことを 知ったりするために、誕 生日や好きなもの、欲し いものなどについて尋ね たり答えたりして伝え合 っている。		自分のことをよく知って もらったり相手のことを 知ったりするために、誕 生日や好きなもの、欲し いものなどについて尋ね たり答えたりして伝え合 おうとしている。	
児童 1	b	-	B	c	C	b	B
児童 2	c	(b)	B	b	B	b	B
児童 3	a	-	A	a	A	a	A

7 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 知識・技能

英語の特徴やきまりに関する事項を理解しているかどうか、それらを実際のコミュニケーションにおいて活用する技能を身に付けているかどうかを評価する観点である。学習初期段階において、努力を要すると判断される状況になりそうな児童を見出し、おおむね満足できる状況となるよう適切な指導を行うことが大切である。

「聞くこと」については、児童が、指導者によるまとまりのある話やデジタル教材の音声を聞いて必要な情報をワークシート等に記載した内容を分析するなどの評価方法が考えられる。「話すこと〔やり取り〕」については、本単元で学習する言語材料だけでなく既習語句や表現を使って、誕生日や好きなもの、欲しいものについて相手とやり取りをする様子を観察するなどの評価方法が考えられる。ただし、1単位時間で全児童を見取ることが現実的ではない場合もあるため、学期の終わりなど、複数の単元の学習の後に、「話すこと〔やり取り〕」に関するパフォーマンステストを実施して、評価をすることも考えられる。

(2) 思考・判断・表現

児童がコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、既習語句や表現を使って、話される内容を理解したり、自分の考えや気持ちを表現したりしているかどうかを評価する観点である。そのため、学習過程において、普段から指導者と児童、児童同士で既習語句や表現を使って常にやり取りをする場面を設定しておくことが大切である。

「聞くこと」については、児童が、デジタル教材の音声を聞いた概要や、その内容についての指導者の質問に対する答えについて、ワークシート等に記載した内容を分析するなどの評価方法が考えられる。「話すこと〔やり取り〕」については、児童が、バースデーカードを使って友達と既習語句や表現を使って、友達のことをよりよく知るためにやり取りしている様子を観察するなどの方法が考えられる。ただし、1単位時間で全児童を見取ることが現実的でない場合もあるため、学期の終わりなど、複数の単元の学習の後に、「話すこと〔やり取り〕」に関するパフォーマンステストを実施して、評価をすることも考えられる。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

児童が英語を使って自分の考えや気持ちを伝え合うことの楽しさや言葉の大切さを実感しながら粘り強く学習に取り組み、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付けているかどうか、また、将来英語が必要な場面で自ら英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けているかどうかを評価する観点である。よって、児童の挙手の回数など、形式的な側面で評価をするのではなく、学習過程において自己調整を行っている側面を捉えて評価をすることが大切である。また、本観点の評価の場面は、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点にかかわる評価の場面と同時とし、本観点のみを取り出しての評価は行わない。さらに、学習活動を通して身に付けた態度を評価するため、単元の導入時に評価したり、1単位時間の授業の冒頭で評価したりすることは適切ではない。

なお、学習の初期段階において努力を要すると判断されそうな児童を見出し、おおむね満足できる状況となるよう適切な指導を行うことが大切である。その際、児童の学習活動の過程における発言や観察等を通じて優れた態度等が認められた場合には、必要に応じてこれを記録しておき、「記

録に残す評価」に反映することも大切である。

8 観点別学習状況の評価の総括

基本的な考え方

単元における観点別学習状況の評価の総括は、基本的に各観点の A, B, C の数の比率を踏まえて総括する。ただし、一つの観点において、二つ以上の活動で記録に残す評価を行う場合は、次のように考えることができる。ある児童の先の活動での評価が「C」、後の活動での評価が「B」であった場合は、その児童が学習に取り組み、おおむね満足できる状況であると判断し、「B」と総括する。一方、先の活動での評価が「B」、後の活動での評価が「C」であった場合は、その児童の学習への取り組みが高まっておらず、おおむね満足できる状況ではないと判断し、「C」と総括する。ただし、三つの活動で記録に残す評価を行い、「B」「B」「C」という評価の場合、B と C の数の比率から、「B」と総括することになるが、一つ目、二つ目の活動に比べて、三つ目の活動内容に重きをおいている場合は、その児童の学習への取り組みが高まっておらず、おおむね満足できる状況にないと判断し、「C」と総括することも考えられる。